

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000393		
法人名	姫路医療生活協同組合		
事業所名	姫路医療生協 グループホームめが		
所在地	姫路市飾磨区妻鹿279番地		
自己評価作成日	平成28年11月18日	評価結果市町村受理日	平成29年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2894000393-00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田四丁目1番地 姫路市役所 北別館内		
訪問調査日	平成28年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中の社会資源の一つとして、またサービス事業所の意義を理解し、地域貢献に力を注いでいます。安心していつまでも暮らし続けられる場所であるように、職員一人ひとりが利用者様や家族様のご意見・ご要望に耳を傾けて、個別のサービス計画に反映している。看護師配置や訪問看護ステーションと契約して高齢化する利用者様の健康管理も重視しています。日常的には転倒予防や口腔ケアの取り組みを増やしてきた。看取り介護の実績も増え、満足度の高い介護が提供できるよう努力している

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設4年目を迎える事業所(福祉介護センターめが)は、周囲が自然豊かな山並みと、播磨灘に注ぐ市川下流域の住宅街の中にある。1階が小規模多機能事業所、2・3階がグループホームという複合型の施設となっている。姫路医療生協連携医療機関(共立病院・共立歯科)や訪問看護ステーション等との連携で、利用者や家族が安心して最期まで自分らしい人生を過ごせるようサービス・ケアに取り組まれている。事業所と地域とのつきあひも自治会や老人会・婦人会・民生委員等との交流、地域の小学校・中学校・高校との交流が着実に根づいている。事業所での夏祭りでは地域住民も参加されており、地域貢献にも努められている。前年度の「目標達成計画」でも進捗が見られた。職員担当制や、その人らしいケアを目指すセンター方式の活用等で、個別介護計画の見直しやチームケアでも質の高いサービスに努められている。今後利用者の高齢化や重度化が進むなかで、さらなる質の向上に向けて「目標達成計画」の推進に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体が事業所の理念を理解し、介護の重点課題を意識した認知症介護の実践に取り組んでいる。管理者自身が認知症介護実践リーダー研修を修了して、さらに質の高い認知症介護に取り組んでいる。	センターの統括責任者であるセンター長は、事業所理念は適切な介護を実践しているかを確認する時に立ち返る物として捉え、また職員もユニット会議等で事業所理念を確認し、理念を踏まえた業務を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校・中学校・高校との交流や介護実習を積極的に受け入れている。最近では、大学生や専門学校生の実習申し込みが年々増えている。事業所の夏祭りで地域住民の皆さんに案内チラシを配布して、近所の方にも参加して頂けた。普段、買い物で利用する地元のスーパーの方と顔見知りになったり、自治会の一員として公民館の清掃に参加している。	地域自治会に加入し、一つの隣保として位置づけられている。このためセンター長は隣保長として隣保長会議や公民館の粗大ごみの立当番に参加し、回覧版も事業所内で回している。今年から事業所の夏祭りを地域の人に案内し、たくさんの方と一緒に開催できた。	事業所は地域との交流に取り組み行事も広がっている。今後は、利用者の行事参加や外出時のボランティアの活用も導入し、滞る事のない支援を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には入居者様や家族様にも参加して頂きお話していただく機会を作っている。施設見学や利用相談には随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期開催の運営推進会議で、事業所の活動報告や入居者様の生活の様子やインシデントやアクシデントの事例紹介をして改善策を検討することもある。	2ヶ月に1回定期的に開催している。地域の区長・副区長、民生委員の代表には必ず開催案内を行い、地域との連携を行っている。小規模多機能ホームとの合同開催であるが、合同開催が支障のないように進行を適切に行い、運営に関する地域からの理解や協力を得て効果的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターから参加していただき意見交換やアドバイス、認知症予防活動の情報提供をしている。分からないことや困難な時には、市役所、消防署、保健所に相談している。	事業所として具体的、直接的な連携はないが、運営推進会議に地域包括支援センターの出席が毎回ある。また、管理者である副センター長が、市内の事業所連絡会の副会長を務め、事業所の意見を取りまとめて市への働きかけも行っている。今後は、運営推進会議の会議録や機関紙等の提出による連携も検討している。	

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として運営規定及び重要事項説明書に身体拘束は行わないことを明記している。身体拘束ゼロは職員全体の認識になっている。また日常的なケアが不適切ケアになっていないかユニット会議等で振り返っている。各階の入り口の鍵は、日中に解除する時間帯を設けている。	前回の目標達成計画の取組で、ユニット入口の施錠については、昼食時は開錠を行い、それ以外の時間帯も徐々に開錠の時間を増やしている。身体拘束と虐待予防に関する研修は、年間研修計画に位置付け実施している。現場での職員の取り組みとしては、サービス向上委員会で接遇の一環として捉え取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会等で高齢者虐待防止について全職員に周知している。普段から言葉かけやケアの方法について申し送りやユニット会議等で不適切ケアになっていないかを話し合いの機会を持っている。	虐待防止にむけて、職員のストレスチェックを、法人独自の様式を用いて実施している。また、事業所内ではサービス向上委員会からの働きかけで、接遇目標としてそれぞれのユニットで目標を「笑顔」「やさしい声かけ」として理念の実践とともに雰囲気作りを行っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用する利用者はいないが、権利擁護に関するパンフレットを設置し職員間で理解を深めるよう学習会を開催している。	現在、制度を利用している利用者、家族はいないが、職員は研修や勉強会で制度を理解し、地域包括支援センターへのつながりができるように事業所内にパンフレットを置いている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者が十分な時間をかけて説明を行い、納得を得ている。事業所として新たな加算を徴収する場合は、利用者家族に対して利用料変更の説明と同意を得ている。	契約時に、利用者が重度化した場合(看取り)における対応に係る指針についても説明し同意を得ている。状態急変時等の緊急時意思確認書は現在取っていない。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所玄関に意見箱を設置して、利用者家族等から意見が言いやすい環境にしている。運営推進会議には可能な限り、利用者様やご家族にも参加して頂き、直接ご意見をうかがえるように努めている。	クリスマス会等の家族の面会の多い行事時に話し合いの場を設けることはあるが、意見が出ることは少ない。家族、利用者の意見や思いは面会時等に個別に聞くことがあるが、直接運営に関わるような意見は少ない。移動の不安定な利用者の家族の意見を反映し、居室にレンタルの手すりを置いている。	事業所では、さまざまな行事等に取り組み、記録写真等が壁に飾られている。しかし、家族等には事業所での利用者の明るい生活の情報が十分に届いていない。グループホームの理解のためにも取り組みを期待したい。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例開催のユニット会議や日々の申し送り等で、職員の意見や提案を聞き、利用者へのサービス向上に繋げている。	管理者は年度末と中間の年2回の職員の個人面談を行い、職員の目標などについて話を聞き、コメントもしている。職員の意見から、利用者の体力低下による転倒予防改善のための体操や口腔ケアを実施している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から現場にいる管理者、センター長が職員の状況を把握している。職場目標、個人目標を掲げて、各自が向上心を持って取り組んでいる。また、年1回以上の職員面接を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修やキャリアアップに繋がる研修への参加を積極的に応援している。今年度は、認定特定行為業務従事者認定者を1名養成した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修、地域包括センター主催の地域ケア会議に参加し 情報収集し知りえた情報の共有に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に、事前面接で顔見知りになって、ご本人の要望や困り事を伺い 案してサービスを利用していただけよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・相談時から、ご家族の不安や困りごと、ご要望などが言いやすい環境に配慮し、安心できる、話しやすい雰囲気づくりをする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の思いを聞き、必要なサービスが何なのかをご家族と一緒に考え、他の介護サービスも視野に入れた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でご本人の思いを理解、適切な支援を行う。共同生活の場において、ご本人ができることを役割として位置付けて、活気ある生活を送れるように支援する。		

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出・外泊はいつでもできる事をお伝えしている。また、お電話等でも最近のご様子をお伝えして、ご家族とも情報共有を図っている。面会時にはゆっくりくつろいでいただけるよう配慮している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間に制限はなく、どなたが訪ねて来られても気がねなく語らいの時間を持って頂けるよう配慮している。絵手紙やお便りが届いたら、ご本人様からお話を伺い思い出を語って頂く機会にしている。	家族の面会頻度は、利用者によって状況も異なるが、平均的には月に1回の面会がある。利用者の生活必要物品の依頼時に喫茶店や病院、マッサージ等に出かけたい等の希望がある時は、職員が連絡にコメントを添えている。利用者は家族と自宅へ帰宅し、自宅の様子を見て安心して事業所に戻る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人の性格や趣味、嗜好を考慮して席等の位置を決めている。レクリエーション時には、助け合って実施できるような配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡や長期入院、他施設への入所決定等で退居になったケースが数件あった。必要に応じた情報提供書を発行したり、相談に応じてご本人中心のサービスが適切に継続して利用できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ち担当制を取り入れ、利用者一人一人に細やかな支援が途切れなく出来るようにしている。定期的な評価や個人目標の設定に利用者の意見を反映している。	継続して、その人らしいケアを目指すセンター方式を活用し、利用者像を職員で共有している。また、利用者には一人ひとりに担当の職員を決め細かい点までかかわる支援を行っている。その中で、困難な利用者の思いも理解できるように取り組んでいる。	

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から知り得た情報、以前利用していた介護サービス事業所からの情報等を入手し これまでの生活環境や暮らし方を理解し、把握するように職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の意見や要望を聞き取り、気持ちに寄り添いながら高齢化に進行する心身状態の低下を理解、共感し、できる限り活気ある生活が継続できるように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議や日々の引き継ぎ時に課題や要望の情報を出し合い、ケアの提供方法などを話しあって利用者様が気持ちよく暮らせるように介護計画に反映している。また、ご家族には施設計画作成時に情報提供して介護方法を確認している。必要に応じて主治医への情報提供やカンファレンスを行っている。	毎月のユニット会議開催時に、利用者一人ひとりの担当職員が支援状況を報告し、必要に応じて会議を担当者会議に変更して、半月に1回のモニタリングを基にケアマネージャー・計画作成担当者が、計画を作成したり、更新している。家族には、面会時に計画を説明し、意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日バイタルサイン(血圧・脈拍・体温)を計測して記録している。排泄や食事量の摂取状況も記録して健康状態の把握をしている。特に水分摂取量は一日の目標量を決めて脱水予防に配慮している。職員間で情報共有をし、ケアの実践方法を確認して介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望や状況に応じて、家族様の意向も取り入れて、自費サービス利用の情報を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに買い物に行ったり、公園まで散歩したり、地元や申し入れのあった学校から介護実習を受け入れて交流の機会を積極的に作り地域貢献に努めている。様々な機会に利用者一人一人の力を発揮して楽しく暮らせるように支援している。		

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人やご家族の要望に沿っている。通院が困難で往診・訪問診療を希望される方は連携先医療機関に繋ぐようにしている。連携先医療機関以外に通院している人は家族を通じてまたは直接的に状態報告をしている。著しく状態が変化している場合は臨時対応で通院支援する場合がある。	利用者の半数近くは従来からのかかりつけ医を受診している。専門的な他科の受診時は、家族が受診対応を行い、利用者の状況等は文書で家族へ渡し医療機関に繋いでいる。また受診の結果は家族から聞き取り、不足時等は医療機関へ確認する。服薬変更時等の大切な情報は、職員で確実に共有するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しているユニットと訪問看護ステーションと契約してしるユニットを有していて、日常的な変化にも対応している。高齢でかつ認知症を患っている利用者様が必要な看護、医療を滞りなく受けられるように介護職と密に連携して日々のケアにあたっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、看護・介護情報提供書を入院先医療機関に提供し、利用者様が安心して療養できるようにしている。入院中のカンファレンスに参加して情報交換することもある。退院時には多職種協働のサービス担当者会議にも参加し意見交換して、退院後の生活に役立てている。	入院時は、事業所から医療機関に利用者の状況報告書を届け、入院中は状況確認を兼ねて利用者を見舞い、また、家族や医療機関とも連携を取りつつ、早期退院に向けて対応している。退院時には医療機関の看護情報提供書をもとに、介助方等について情報を共有している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、重度化した時や終末期の関わり方について説明をしてサービス利用を開始している。入居後はご家族や医師とも相談しながら段階的に関わり方を相談しながら対応している。	事業所では、前年度に二人の看取り介護を行った。職員は、月1回のユニット会議の中で『看取り介護』についても研修を行い、利用者、家族にも安心を提供できる体制としている。また、事業所にはAEDも設置され、職員は業者による研修修了証を所持している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・緊急時対応の学習会をして 職員間に周知している。緊急時対応マニュアルを作成して、確認できるようにしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練(昼間と夜間を想定して)を年2回実施している。地震や水害に関する情報を速やかに入手し対応するために兵庫県災害対策センターにメール登録している。水害を想定した訓練を今年度は計画している。	事業所は地域的に海や川の近くにあり海拔も低く、巨大地震発生時等には津波被害も想定されている。このため、事業所の年2回の避難訓練では、火災の他あらゆる災害に備えての訓練を実施している。地域との協力についても、先ずは事業所で実践し、運営推進会議等で報告とともに依頼していく。	

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の生活歴や性格、価値観などを尊重してプライバシーに配慮した言葉かけや対応をするように心がけている。	ユニット会議で接遇担当職員が研修を行う。耳が遠い利用者へ排泄誘導時に大きな声で声かけをして、回りへの配慮や個人の尊重もないような介助について話し合ったりして、よりよい介助が実践できるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話の中で、食べたい物やしたい事、嫌なことなどが言えるようにコミュニケーションの持ち方にも配慮している。気持ちの表出が困難で把握しにくい時もあるが、職員と馴染の関係になり利用者様が自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も無理強いせず、それぞれの人のペースに合わせた生活が送れるように支援する。利用者様が忘れても大丈夫な様に、知り得た情報はカルテ等で情報共有している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服や季節に合った服装をご本人に選んでいただくようにしている。お化粧品が日課になっている人には化粧品を用意していただいで続けていただくようにしている。髪のカットや白髪染めをしたい方の希望を聞いて定期的に訪問美容日を設けている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事を一緒に作り、食べて、片付けることに利用者様参加で実践している。お誕生日には食べたい物、作ってみたい物を聞いて献立に取り入れるときもある。職員も一緒にテーブルについて食事し、食卓を囲んで団らんすることを大事にしている。	食事は生活の原点として、楽しみなものになるような取り組みに努めている。三食とも職員と共に一人ひとりの力を活かして手作りで調理し、一緒に楽しんでいる。週2回程度は利用者も1～2名は食材の買い出しに同行し、自分の買い物もできる。テラスの菜園で育てた季節の野菜等も収穫し献立に取り入れている。誕生日、おやつ、おせちも手作りで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった形態、量に配慮した食事を提供している。特に夏場は水分摂取量や内容に配慮して十分に摂取できるように工夫している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	いつまでもご自分の歯で噛んで食べることができるよう、口腔ケアを継続している。定期的に歯科衛生士に訪問も受けている。食事前には口腔体操をして唾液の分泌が良くなるような取り組みを継続している。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄に関する情報を職員間で共有し、排泄パターンを知りそれぞれに適した声掛けやトイレ介助をしている。排泄の自立にむけては、排泄表から見えてくる情報を分析して個別介護計画に反映してチームアプローチを実施している。紙パンツや尿取りパットを使用する場合も適切な商品の選択に努めている。夜間帯も出来る限りトイレに行っていたことに拘っている。時には排泄誘導の声掛けが大きくなって、配慮に欠けることもある。	トイレでの排泄の自立支援に努めている。一人ひとりの排泄パターンや習慣を共有し、随時見直しを行っている。紙パンツやパット使用者が多いが、おむつ使用者はいない。布パンツで自立できている人も数名はいる。夜間のポータブルトイレの使用者も数名いる。誘導時の声掛けなどプライバシー配慮に努めている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄表で確認し申し送りをしている。自分でトイレに行ける人の排便確認ができにくいことがあるが、腹部症状や食欲等の観察と平衡して確認するようにしている。できる人には居室のカレンダーに印をつけてもらい職員と共に確認するようにしている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯を職員の都合で決めることはなく、常に柔軟な対応を心がけている。現在の利用者様が「一番風呂がええ」と午前中の入浴を好まれるので、2階では入浴時間を午前に、3階では午後にも入浴時間を設定している。気ごろの合う利用者様同士なら一緒に入浴して楽しめることもある。	浴室は広く、個浴、機械浴、リフト浴など利用者の状態に応じた対応が出来ている。入浴は週3回を基準にしているが毎日の利用もできる。時間帯も午前、午後での柔軟な対応に努めている。入浴を楽しんでもらえるように、季節湯なども取り入れている。プライバシー配慮では同性介助としている。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は概ね決めてはいるが、利用者様が休みたい時間に就寝して頂いています。年々高齢化が進む中で、必要は人には昼食後に短時間の午睡を設けている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書やお薬手帳で服用しているお薬に関する情報を把握している。薬の内容変更があれば、管理日誌に記載し職員間で情報共有している。新しい薬が開始になると看護師から介護士に情報発信し体調変化の有無を観察するよう努めている。調剤薬局の薬剤師とも連携して効能等を理解するよう努めている。		

自己 者第	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの持てる力を発揮し、共同生活において役割を果たし 活気ある生活が送れるように支援する。時にはイライラして短期をおこし仲たがいがいすることもあるが、馴染の職員が上手に介入して落ち着いて暮らして頂く様支援している。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週2回 食材の買出しに利用者様と職員と一緒に外出している。その時に、利用者様が欲しい物を購入することができる。散歩したい時は近所を散歩したり、月に1回程度は皆さんで外出する機会を計画している。また、個別では家族様と一緒に外出されるケースもある。家が気になるから帰りたいと要望される方がいれば、家族様にその気持ちを伝えて要望がかなうように支援する。	日常的な外出支援では、一人ひとりの希望や状態で、近隣の公園や神社等に散歩に出かける。月1回程度は外出行事を計画して、お花見や買い物、外食、お祭り、小学校等の運動会、公民館での作品展へも出かける。家族支援の外出もある。週2回 食材の買出しに利用者も一緒に外出し、利用者が欲しい物を購入することができる。高齢化で外出の機会が少なくなる工夫にも取り組んでもらいたい。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持ちたいと要望する方がいれば、ご家族と一緒に話し合い 個々が納得する解決策を見出す。買い物時に、個人のお財布を準備し、立替金を事業所から用意して所持してもらい買い物を楽しんで頂く。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときは事務所からかけていただく。(かけるお手伝いをします) 自室で落ち着いて話したい人には家族様と話し合っって携帯電話を所持して頂くようにしている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各階の玄関には月毎に利用者様と一緒に制作した季節感のある創作物を展示するようにしている。入口を一步入ると長い廊下があり、そこには楽しかった思い出の写真や個々の作品を展示して廊下を歩く時にも思い出して頂けるように工夫している。ホールは明るくて、ゆとりある空間で食事や団らんが楽しくできるような環境づくりをしている。ベランダには季節の花や野菜を栽培して、季節毎に開花や収穫を楽しめるようにしている。館内の空調や湿度・温度管理に配慮し、風邪やインフルエンザの予防に努めている。物干しが利用者様の視界に入ることが役割の気づきに繋がるよう機会を作っている。その日のメニューをホワイトボードに紹介して食事を楽しむ工夫をしている。(ホワイトボードの記入は利用者様の役割です)	共用空間(廊下、多目的ホール、台所、トイレ、浴室等)は全て広めで明るく清潔に管理されている。生活感や季節感がら感で感じられる工夫が随所に見られる。誕生会などの行事や外出での思い出の写真、手作り作品の展示、クリスマスを楽しみにする創作物も展示されている。随所に観葉植物や季節の花も置かれている。和のスペースづくり等の工夫もほしい。	

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は気の合った利用者様同士で座っていただけるようにしている。必要に応じてテーブルを増やして対応している。さらにつろげるようにソファを配置している。本を読んだり、足マッサージが自由にできるように棚の高さや配置を考慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様やご家族から話を伺い、好みの物や大事にしている物(遺影やひ孫さんの写真など)を持ってきていただいて居室で安心して過ごせるようにしている。必要があればテーブルや椅子、テレビなどを持ち込んで居心地良い空間になるように環境整備をしている。	居室は広めの洋室でベランダもあって明るい。しつらえでは、ベッド、洗面台、冷暖房機、カーテン、整理ダンス等がある。一人ひとりの使い慣れた家具や写真、カレンダー、時計、テレビ、位牌なども持ち込まれて、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。入口の表札でも写真や手作り作品で”わが家”を演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが持てる力を発揮し、役割を持って楽しく生活していただくために、その時々のお各々の思いを聞き逃さないよう職員間で意思統一している。一人ひとりの出来ることやわかることが変化する状況を把握し、新たな役割を創造したり個別計画を修正して安心して共同生活を送っていただく様に努めている。		